

呼 吸 器 内 科

1. スタッフ

科長（教授）	山口 泰弘
医員（講師）	太田 洋充
	椎原 淳
（助教）	前田 悠希
シニアレジデント	4 名

2. 診療科の特徴

我々呼吸器内科は、さいたま北部医療センターやさいたま市民医療センター、大宮双愛病院などとの密接な関係を保ち、約20床を運営している。さらに大宮医師会コンサルタントとして肺癌検診委員会に参加して大宮医師会の肺癌検診に協力している。非常に多くの胸部悪性腫瘍の症例に対する化学療法、放射線療法に従事しているほか、間質性肺炎や閉塞性肺疾患、気管支喘息、睡眠呼吸障害など、呼吸器内科領域の全体に対応している。

・ 認定施設

日本内科学会認定施設
 日本呼吸器学会認定施設
 日本アレルギー学会認定教育施設
 日本呼吸器内視鏡学会認定施設
 日本がん治療認定機構認定研修施設

・ 認定医・専門医

山口泰弘
 日本内科学会認定総合内科専門医、指導医
 日本呼吸器学会専門医、指導医
 日本老年医学会専門医、指導医
 太田洋充

日本内科学会認定総合内科専門医
 日本呼吸器学会専門医
 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医、指導医
 日本がん治療認定医

椎原 淳
 日本内科学会総合内科専門医、指導医
 日本呼吸器学会専門医

前田悠希
 日本内科学会総合内科専門医、指導医
 日本呼吸器学会専門医
 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医

3. 診療実績

1) 外来患者の内訳

2023年4月から2024年3月にかけて、新患外来が週5日で、外来初診患者年間のべ数は598名であった。

2) 2023年1月から12月 入院患者の内訳のべ584名の入院患者

疾患名	入院患者数
肺癌（疑いを含む）	368名
胸膜中皮腫	2名
間質性肺炎	44名
肺炎・胸膜炎	73名
急性・慢性呼吸不全	2名
縦隔腫瘍 （胸腺腫・胸腺癌）	8名
慢性閉塞性肺疾患	15名
気管支喘息	15名
気胸	18名
睡眠呼吸障害	4名
気道出血	10名
COVID-19	6名
その他	19名

3) 治療検査成績

2023年1月から12月、呼吸器内科にて気管支鏡検査をのべ241件施行した。

疾患名	人数
肺癌疑い(転移性肺腫瘍を含む)	139名
間質性肺炎	43名
抗酸菌症感染症疑い	21名
その他の感染症疑い	18名
血痰精査・気道出血	5名
サルコイドーシス疑い	15名

4) クリニカルインディケータ

2023年1月－2023年12月

外来肺悪性腫瘍化学療法
1,864件(医事課)

4. カンファランス

毎週水曜日午後5時より呼吸器内科、呼吸器外科の合同カンファランスを実施しており、すべての新入院患者、一部の外来患者について治療方針・診断の検討、討議を行っている。

5. 研究・学会活動

- 1) 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌(NSCLC)または進展型小細胞肺癌(ED-SCLC)患者に対するアテゾリズマブ併用療法の多施設共同前向き観察研究

【J-TAIL-2: Japanese-Treatment with Atezolizumab In Lung Cancer-2】

- 2) 多分野合議による間質性肺炎診断に対する多施設共同前向き観察研究
Providing Multidisciplinary ILD diagnoses (PROMISE) study
- 3) WJOG11919L ALK陽性進行期非小

細胞肺癌に対する1次治療における、及びアレクチニブ治療後2次または3次治療におけるブリグチニブに関する多施設共同前向き観察研究

ABRAID Study

- 4) 根治的化学放射線療法と durvalumab による維持療法施行後に病状進行を認めた局所進行非小細胞肺癌における次治療に関する検討
- 5) 高感度多遺伝子検査システム MINTs による、細胞診検体を用いた肺癌 druggable 遺伝子変異検索
- 6) EGFR-TKI 治療歴を有する EGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌に対するダコミチニブ療法の観察研究
- 7) 悪液質を伴う非小細胞肺癌に対するアナモレリン+免疫チェックポイント阻害薬(イピリムマブ+ニボルマブ)の第Ⅱ相試験(NEJ058A 試験)
- 8) 切除不能正岡Ⅲ/Ⅳ期・再発胸腺腫に対する治療の実態・有効性に関する観察研究
- 9) EGFRを除くドライバー遺伝子変異/転座陽性肺癌における免疫チェックポイント阻害薬治療の実態調査
- 10) 『PD-L1 発現で選定された、未治療の局所進行、切除不能、又は遠隔転移を伴う非小細胞肺癌患者を対象に抗 TIGIT 抗体 ociperlimab と tislelizumab の併用をペムブロリズマブと比較する第3相無作為化二重盲検試験』のバイオマーカー分析研究
- 11) 切除後の非小細胞肺癌に対するアテゾリズマブ術後補助療法の多機関共同前向き観察研究<J-CURE>
- 12) 細胞診検体を用いた MINTs 検査と組

織を用いた多遺伝子コンパニオン診断薬検査の結果一致率の検討

- 13) 切除不能局所進行非小細胞肺癌に対する化学放射線療法後のデュルバルマブ投与中もしくは投与後早期に病勢進行した患者に対する化学療法+デュルバルマブ+トレメリムマブの第Ⅱ相試験

後ろ向き研究（倫理委員会申請済み）

- 1) 75歳以上の未治療進行非小細胞肺癌患者における免疫療法併用化学療法の有効性と安全性を検討する多機関共同後ろ向き観察研究（NEJ057）
- 2) 肺癌・胸膜中皮腫に対する免疫療法の後ろ向き研究
- 3) 非小細胞肺癌の術後局所再発における化学放射線療法および化学放射線療法後デュルバルマブ維持療法の有効性および安全性を検討する多機関共同後ろ向き観察研究（NEJ056）
- 4) 実地臨床での EGFR 遺伝子変異陽性進行非小細胞肺癌におけるアファチニブの安全性と有効性の後方視研究：多施設共同研究
- 5) EGFR 遺伝子変異陽性Ⅲ期非小細胞肺癌（NSCLC）に対する同時化学放射線療法（CCRT）後のデュルバルマブ投与の有効性と安全性を評価する多施設共同後方視的観察研究（NEJ063試験）
- 6) 肺悪性腫瘍臨床検体を対象とした、多遺伝子変異検査システム MINtS と他種遺伝子変異検査との結果一致率を検索する後ろ向き観察研究（NEJ021D試験）

- 7) 過敏性肺炎の全国疫学調査

その他の多施設共同研究

- 1) 胸部 CT で巨大な嚢胞の形成を認め、上葉優位型肺線維症（PPFE）と病理診断された症例の解析

その他

- 1) Mucin4による好中球性炎症の制御機序の解明
- 2) MUC4はびまん性肺胞障害の新たな臨床マーカーである。

論文： 英文原著：11報

6. 事業計画・来年の目標

- 1) 肺癌治療患者数の増加
- 2) 学会発表、論文発表の充実
- 3) 臨床試験への積極的参加